

医療とサービス 座長総合コメント

座長： 最終的に私がまとめてこのセッションを終わりにしたいと思います。

2題に共通することですが、個別性ということ、それから今Gさんからご指摘をいただきました、定量的ではなく定性的であるということ、我々はこれからどう判断していくかということは、非常に大切なことだろうと思うのです。

例えば個別性ということについて、今、テラーメイド・メディスンなどという言葉があって、遺伝子のレベルの議論ばかりされているのですが、そうではなくて、もっとマクロ的に個別的なことを把握できるという力が大切なだろうと思うのです。ですから、先ほどの「小規模多機能」の「多機能」という言葉よりも、多様なサービスの居宅ということなんだろうと思いますけれども、行政とか何らかの公のサポートではなくて、自発的にこういうものができる社会を作っていくというのは、これは不可能ではなくて、私はやはりやるべきことなのではないかなと思います。そしてそれをサポートする仕組みというのはどういうことであるのか、そのことをつぶしてしまうような制度作りではなくて、それをサポートする社会の仕組みって一体なんなんだろう、ということでしょう。

例えば、ちょっと固い話になりますけれども、財政という観点から見た時に、財政の機能は3つあって、最後のところに所得再分配という機能がありますが、その所得再分配機能だけでサポートしながら、あとの仕組み作りというのは現場に任せるということが、私は大切なのかなと考えます。

それから、以前、もう20年ほど前になりますけれども、日本で老人医療が非常に問題になった時期がありました。その時に、その中でも本当にいいと言われている病院に行った時の私の経験ですが、900ベッド程の病院で、そこに入っている方達はみんなグループに分かれて、それこそ「お遊戯」を一日中やられているのです。その人の尊厳というのは一体どういうことなのか、という感じがしました。ところが病院の職員の人たちは若い人ばかりで、イキイキとして仕事をしている。この若い人たちのイキイキとしている顔と、全く能面の無表情で「お遊戯」を毎日毎日繰り返しさせられている人たちの尊厳ということ考えたときに、「ああ、これではいけないな」と思いました。

ですから、今の2題というのは、問題提起として大切な2題であると思いますので、やはりこういうものをきっかけにして、それぞれの人たちが参加をし、それぞれが物事を作っていくという活動につなげていただきたいと思います。